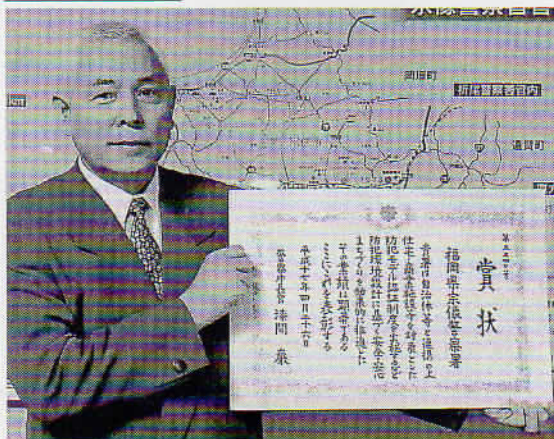


宗像署に警察庁長官賞

モデル施設に認証交付 地域安全リーダー養成 市と連携した防犯施策評価

宗像署(中西和夫署長)は、住宅や商業施設などを対象にした防犯モデル認証制度の創設など、宗像市と連携した地域防犯



宗像署に贈られた警察庁長官賞を手にする
同署生活安全課の小坪正美防犯係長

の取り組みが評価され、(警)という。警察庁長官賞を受賞した。事件捜査で功績を残した県警本部と所轄署の捜査本部などに贈られることはあるが、「行政施策で署が単独で受賞するのは全国でも珍しい」(県同署はこれまで、生活安全課(山口宏規課長)が中心となり、宗像市などと連携して全国に先駆けた地域防犯施策を次々と展開してきた。昨年九月に創設された

同認証制度は、建物の防犯対策を審査し、周囲の見通しの良さや防犯カメラ設置など独自の基準を満たした施設に、「お墨付」の認証ステッカーを交付する制度。このほか、死角を減らすなどして犯罪を起しにくい建物や地域をつくる「防犯環境設計」の導入を同市のJR赤間駅周辺整備事業などで推進しているほか、昨年十二月には、住民を自主防犯活動の専門家に育てる「地域安全リーダー養成講座」を市と共同で開講した。

今回の受賞は、これらの施策が「自治体と連携し、防犯環境設計に基づく安全・安心なまちづくりを効果的に推進した」(警察庁)と評価された

もので、中西署長は「施策を定着させることができるよう、一層を引き締めて地域の安全のために力を尽くしたい」と話している。